



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 9 月 1 4 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

臭いを展示する博物館

2025.9.7 朝日新聞 GLOBE に、職業がら大変興味深い記事が掲載されていました。しかも QR コード付きで、動画も見られて参考になりました。それはと言うと、臭いを展示する博物館の話です。始めに登場するのは、イギリス南西部の港町ブリストンにある、19 世紀に大西洋横断航路で使用されていた大型客船「SS グレートブリテン号」。引退後フォークランド諸島でボロボロの姿で発見され、生まれ故郷で臭いも展示する博物館として公開されました。特徴的なのは、当時の大西洋航路の船内の様子を人形を使って再現するだけでなく、その場の臭いもあわせて展示している点です。四つん這いで木桶に顔を突っ込んで船酔いに耐えている女性船員。スピーカーからは、嘔吐の音だけでなく、独特なツンとした臭いも再現されています。一緒に運ばれていた家畜も臭い付き。尿や汗がしみ込んだリネンやトイレのアンモニア臭、調理場の料理の臭いまで再現する徹底ぶり。

次に紹介されていたのは、パリのセーヌ川添い。レ・ミゼラブルでジャン・バルジャンが負傷したマリウスを背負って逃走した下水道。その一部を博物館にしたのが、「下水道博物館」です。パリの下水道の起源は 14 世紀。ナポレオンの時代に整備が進みました。現在では 2,600km 以上のネットワークが整備されているそうです。そんな未来都市を先取りしたような設備ではあるのですが、ゴオーツという音とともに、茶色い固形物がプカプカ浮かぶ下水ですので、強烈な悪臭が鼻を突きます。人間が生活する限り汚水はつきものです。生きるということは、臭いと切り離せないということをリアルに体感し学習で



きる施設と言えるでしょう。

フランスと言えば、ファッションブランドとともに、香水も有名ですが、悪臭があればこそその香水文化だと、その必然性を感じています。そう言えば、日本でも 595 年に淡路島に沈香が漂着して以来、「薫物（たきもの）」が平安貴族の間で流行し、お香の文化が生まれました。その裏には、きっと似たような境遇があったのでしょうか。頻りに風呂に入れた訳でもないし、髪は長いし、どこで用を足していたんだか。

世界初の AI 閣僚誕生

2025 年 9 月、東欧のアルバニア共和国で世界初となる「AI 閣僚」が誕生しました。この革新的な取り組みは、政治とテクノロジーの融合を象徴する出来事として、国際社会に大きな衝撃と関心をもたらしています。

AI 閣僚誕生の背景には、長年にわたる公共調達における汚職や不透明な入札プロセスにあります。これに対し、エディ・ラマ首相は「100%腐敗のない国家」を目指す改革の一環として、AI 技術の導入を決断。2025 年 9 月 11 日、仮想の女性 AI「ディエラ (Diella)」を新内閣の閣僚として任命しました。

「ディエラ」という名前はアルバニア語で「太陽」を意味し、希望と透明性の象徴として名付けられました。彼女は民族衣装をまとった姿で登場し、国民に親しみやすいイメージを与えるよう設計されているとのこと。ディエラが担当するのは、政府の公共入札に関する業務です。具体的には「公共事業の入札プロセスの管理」「入札企業の審査と選定」「契約の透明性確保と記録管理」「不正行為の検出と報告」を担います。これらの業務は、従来人間の官僚が担当していた領域ですが、AI による自動化とアルゴリズムによる判断により、恣意性や癒着の排除が期待されています。「AI に閣僚の資格があるのか」といった根本的問題はあるにせよ、汚職の撲滅、公平性と透明性の向上には効果がありそうですが、皆さんはどう思いますか。因みにディエラはマイクロソフト社とアルバニア政府の共同開発によるものです。

